



梶谷 康介議員

唐津駐車場“物産振興施設”是か？非か？町民の疑問と不安解消の為に！

町 長

漁業を支援し、松前らしいものを総合的にアピールしたい！

町長 これまで歴史を生かすまちづくり整備を進めてきましたが、海岸ゾーンは町単独での唐津駐車場の高上げは難しく、進んでいませんでしたが、国土交通省のご協力を頂いて町の費

梶谷 平成19年度町政執行方針の中で、地域産業の振興にあたって、如何に付加価値を付け、異業種交流が相互に連携し、全体としてまとまりのある産業組織化を図り、更に観光や産業等のインフォメーション機能及び松前らしさのこだわりをもって町外へもターゲットを広げられるものとして取り組む”という町長の思いを、広報まつまえ”等機会ある毎に町民へアピールしているが、町民の反応は交々ある。期待に込める中身であつて欲しいと願いなから内容を質す。何故唐津駐車場の何か 扱う松前らしい物産とは何か 物産振興にどうつながるのか 期待度は 公設民営の運営主体は 城下通りとの連携は 歴史を生かすまちづくり全体計画との関連は 財源計画は

新しい商品開発は引き続きしていかねばなりません、行政が中心ではなく、松前町の民間業者が産

用をかけず高上げが実現できてこれまで遅れていた海岸ゾーンの整備を進めることができるようになったと思います。この物産振興施設は、ただ単に建物を造るのではなく、漁業の振興や漁業者の支援、旧波止場のイメージ向上、ヒストリーフロント整備という平成15年にまとめられた整備計画書に基づいた振興であると位置づけています。松前らしさは歴史、伝統文化から生まれる食の豊かさ、町民の思いを含めて松前らしさと言えらると思えます。松前らしいものを扱いたいという根底には、今大変苦しんでいる漁業協同組合を後押しして漁業者の生活を支援していきたい思っており、漁業者の高齢化や漁獲高の低迷の中で付加価値をつけていかなければならないのは永遠のテーマです。前らしいものを総合的にアピールしていきたくて考えています。

現在、直販課で1億2千万円位の売り上げがあり、これを数年前までの1億5、6千万円まで引き上げ、年商1億円の売り上げがあつたJRTラベルセンター発行業務が出来れば合わせて2億5千万円位になりますので十分な費用対効果が出てくると確信しています。

業クラスターの結びあつて新しいものを生み出していくことが良いと思つていますが、それを中心ということでもなく、松前の漁業の支援を大前提に考えており、漁組との連携が大切になると思ひます。現在、漁組と積極的な話し合いをしており、大変厳しい状況の中でどの様に活路を見出すか真剣に考えていますので漁組が臨む方向と松前らしさを結びつけていくことが大切だと思ひます。ただ単に鮮魚を販売するのではなく手を加えることで更に高い値段で喜ばれる商品を提供していくことが十分に可能だと思ひます。

この整備の中でお互いが生かされるような形を十分注意しながら進めていく必要があると思ひます。1億5千

漁業協同組合が直営や、新たな組織団体を作つてやることもありますが、どのような形で参画するかはそれぞれ団体に考えていただいており、町もその中に入つて協議をしたいと考えています。海岸ゾーンと商店街ゾーンの連携はしていかねければならないと思ひます。唐津駐車場の整備だけではではなく旧波止場から沖ノ口広場の下の海岸まで導線をどう結びつけていくかが大きな計画の中でこの布石であります。また、商店街ゾーンには十分な駐車場がないのでこの整備の中でお互いが生かされるような形を十分注意しながら進めていく必要があると思ひます。



連携が望まれる商店街ゾーン

万円を目途に進めたいと考えており、防衛省の3分の2補助事業を進めたいと思つています。仮に1億5千万円だとすると町の持ち分は5千万円になります。過疎債の適用や政府が掲げている「頑張る地方応援プログラム」に掲載し交付税措置を受けられると自己資金がゼロに近くなる施設を造ることが出来ます。



菊地 祐司議員

新まちづくり計画 どう進める町長！

町 長

町民の多くの意見を吸い上げて計画策定したい！

町長 平成16年に合併協議会を設置した際に人口推計しており、これによると計画5年目の平成24年には人口が8千8百51人。10年目の平成29年では7千5百44人というような数字にな

菊地 極めて自主財源に乏しい中で、新たな10力年まちづくり計画は、今までの配分投資から脱却し、その町らしい選択投資を考えていくと明示されているが、策定にあたり、パブリックコメント制度を導入するとしている。
 今後の進め方について伺う。
 基本構想の基礎としていく人口動向の推移をどう見ているのか？
 まちづくり計画の名称は決まったのか？
 計画の策定期間、流れはどうなるのか？
 計画の基本方針は決まったのか？
 老朽化している町営施設等、この10年でどう整備していくのか？
 計画素案についての町民の意見をどのように取り入れていくのか？

つており、平成29年度には高齢化率は43・6%の推計がされておりあります。社会減については当町のみならず北海道の過疎地はどこも抱えている頭の痛い問題だと思えます。地域内に雇用の場を作ることが一番の解決策ですが簡単ではない中でどう地域を活性化、生活ができる場を町内に作り上げていくか検討していかねければならない大きな問題だと思えます。

まちづくり計画の名称はまだ案として掲げるに至っておりません。これから自身の基本構想等とともに名称及びテーマについてもご提案したいと思っています。松前には素晴らしい伝統、歴史、文化があり、その名称、テーマというものも日々の生活からしみ出てくるような味わいのあるものでなければならぬと思えますし、表紙を見てどこかわからないようなテーマや中身であってはならないという考えで構想の中身について考えていきたいと思えます。

今後の日程は7月に地区別懇談会を開催して素案をまとめ上げ、同7月に総合計画審議会に諮問させていただきます。そして8月にはパブリックコメントを実施し、10月に答申を受けて12月の議会に上程したいと考えています。

10年後に向けてどういうふうに変わっていくかなければならないかを訴えてそれに向かつて町民の方々と一緒に向かっていく事が必要だと思えます。基本方針は現時点では定めていませんが7月の説明会等できちんと訴えていく考えです。大切なのは町民の皆さんが郷土を愛する心を持って地域産業の振興、町民福祉の向上、確保、充実を押しやっていく必要があると思えます。



たいと思えます。
 5回、地区別の懇談会の他に産業団体との懇談会を開催する考えですが、定期の懇談会の他に例えば町内の会などの要請があれば定期的なもの以外にも積極的に出向いて対応したいと思っていますし、パブリックコメントは計画を最も町民の方々に議論してもらおうのオープンな考え方ですのでそこに広報で概要を示したりアンケートをもらうというふうな、あらゆる方法を使って町民の方々の目に触れるような取り組みをし、一つでも多くの意見を吸い上げるような計画策定を図りたいと思えます。

松前町21世紀町づくり計画

